

TZ250M

1993年 / レースマシン

1990年代のロードレース世界選手権 (WGP) において2ストロークエンジンのマシンが大多数を占めていた。また、当時多くの日本人ライダーが全日本ロードレース選手権からステップアップしてWGP に参戦していた。

市販レーサー TZ250をベースに開発されたファクトリーマシン。'90年型 YZR250から受け継いだ一軸クランク・V 型2気筒2ストローク249cc、出力85ps 以上のエンジンは、3年にわたる熟成によって優れた加速性能、パワー特性を実現し、車体や足まわりには市販モデルとは異なる専用パーツが数多く織り込まれていた。原田哲也選手とホンダ NSR250を駆るロリス・カピロッシ選手の最終戦における劇的な攻防の結果、WGP 挑戦1年目でのチャンピオン獲得をもたらした。

ちなみに、2002年に最上位クラスの500cc が MotoGP クラスと名称変更されたことを契機に、レースの総称も現代に至るまで「MotoGP」となっている。

